

巻頭エッセイ

最先端を行くノルウェー



渡邊辰也
三菱造船株式会社

このエッセイを書いている今、私はノルウェーにいます。せっかくの機会ですので、ノルウェーについてお伝えしたいと思い立ち、ホテルで執筆をしております。

6月6日から9日にかけて、ノルウェーの首都オスロにて国際海事展「ノル SHIPPING2023」が開催されました。コロナ渦の影響で一時は規模の縮小を余儀なくされましたが、今回はコロナ渦が明けてから初めての開催となったことから、世界各地から多数の展示者、来場者が集まり大きな盛り上がりを見せました。私自身としても、約10年前にお世話になった欧州のお客様とお会いする機会があり、とても懐かしく、そして喜ばしく感じました。

ノルウェーに行くのは初めてであり、ノルウェーは歴史的な建造物が多く、自然が豊かなイメージを持っていましたが、それだけではなく、実は時代の最先端を行っていることが分かりました。

まず一つ目はデジタル化が加速していることです。ノルウェーでは世界で初めてFMラジオを全廃してデジタル放送に踏み出したことは世界中でもニュースになりました。また、電子決済も進んでおり、滞在期間中の支払いは全てカードで行うことが出来、両替を行う必要がありませんでした。この他にもオスロ市が実施した興味深い取り組みとして、高齢者が参加できるゲーム大会を市が主催したこともあります。この大会の目的は、高齢の世代にゲームのコミュニティに参加することで社交関係を築き心と身体を健康にすることに加えて、デジタル化が進むノルウェーで、社会の変化の道を高齢者も共に歩んでもらいたいという狙いもあります。日本だけではなく、どの国においても高齢の世代がデジタル化についていけるかは課題となるので、このような取り組みは取っ掛かりとしては面白いと感じました。

二つ目は電化です。フィヨルドが美しいノルウェーでは独特の大気汚染問題が懸念されています。フィヨルドの観光客が多い地域となると、夏に多くの観光船が各国から押し寄せ、船から出る大量の排ガスがフィヨルド地帯の空気の汚染に繋がります。また、冬になると、山々に囲まれた盆地となっている街の上に冷たい空気が蓋となって覆いかぶさるため、車・船・暖炉などからの排ガスが街に溜まってしまい、特定の都市の市民は、ぜん息などの問題に苦しむことになります。従って、車・電車・船を電化することで排ガスを無くすことで美しい自然を守る、そして市民を守ることに繋がりますので、ノルウェーでは電化を推進しております。ノルウェーでは船も重要な交通手段と位置付けられており、船の電化も進んでいます。私も電気推進の船にりましたが、油焚きの船独特の騒音や臭いが一切なく、動いていることにも気付かないくらいに静かで快適でした。

日本においては、電子決済などデジタル化は進んでいるものの、船の電化はノルウェーと比べると発展途上です。海象の違い、公共交通機関としての位置付けの違いなどから、船の電化には難しい点が多々あると思いますが、日本では電車やバスが主流であることに對して、船には馴染みがなく、「音がうるさい」、「揺れる」といったイメージを少なからず持っています。電気推進船の普及が実現すれば、私自身のように電気船を実際に体験する人が増えることで船へのイメージが変わり、新しい価値を生み出すことが出来るのではないかと思います。

日本に帰国する日が近付いてきたので、明日はオスロ界隈を観光しながら空港に向かうことにします。